

三村知事相馬激励

安全・安心で高品質なりんごを、

「日本一の産地」弘前市から世界に向けて発信

現地激励会の意見交換では、JA相馬村青年部長が「産地パワーアップ事業の充実・強化についてより多くの生産者が活用できるように国へ働きかけてほしい」、女性部長は「TPPに対応した農家経営維持対策と販売拡大について知事のトップセールス継続を頑張ってもらいたい」と意見を述べた。それに対し三村知事は「本県果樹産地を維持・強化していく上で極めて重要な事業であると認識していることから、より多くの生産者の皆様が活用できるよう、働きかけていく。更に、国内外の消費者に愛される品質の高いりんごを作っていただくようお願いし、私自ら効果的にトップセールスを実施してまいります」とコメントした。

また、知事による摘果作業では「ならせすぎないように適正な摘果で、非常に美味しい世界最高品質で世界に通じるりんごを作ることがを是非と

強化を図る

7月8日、紙漣沢地区の大場勉専務園地で、三村知事の高品質りんご生産に係る現地激励会が行われた。JA相馬村は大場専務を筆頭に青年部長の成田陽平さん、女性部長の大黒谷ヨリ子さんが三村知事と意見交換した。その後、三村知事が作業台車に乗り、大場専務指導のもと摘果作業を行った。摘果作業が終わると、長慶共防の成田馨共防長のガンパロー三唱で今年も高品質りんご生産に向けて、生産者・関係機関が一丸となって頑張ろうと意気込んだ。



摘果作業で厳選したもの以外を摘み取るのがもったいないと心を痛めた三村知事。

生産者と意見交換し産地



高品質生産に向けて関係機関が一丸となることを確約



成田馨氏の意気込みと共にガンバロー三唱

もお願いしたい。実際に園地を見ると、今年のリンゴの出来も非常に良い。出来が良いのに摘果でこんなに落とすのかと思うくらいもったいないと痛感した。こうして摘果管理を徹底するからこそ世界最高のものになると改めて感じた。出来が非常に良い状態なので、このまま風水害等なく順調に生育していくことを期待していますし、良い出来秋を迎えた際には販売はまかせろーという感じでやりたいと思っています。また、今年黒星が多く見られる年だが、県としても原因究明と対応に頑張っていく。今年も販売額1千億円目指してがんばろうー」と意気込んだ。

大場専務理事は「相馬地区はりんごに特化した地区で、三村知事自ら来てリンゴの生産、ましてや販売も含めたお話をいただけで我々も良い出来秋を迎えられるように頑張っていきたいと思う。ここ数年、輸出も含めてリンゴの状態は良い状態が続いている中で、今年も昨年に引き続き良い年になってくれるといいなと思っている。園地によっては黒星の心配もあるが、農家は今まで災害や病害虫と戦ってきた歴史があるので、これに負けないように管理して頑張っていく」とした。